

同窓会報

(第49号)

発行: 〒260-0853
千葉市中央区葛城1-5-2
千葉県立千葉高等学校同窓会
同窓会長 林孝二郎
TEL. 043-239-5550
FAX. 043-239-5551
印刷: 有限会社 プリントピア
TEL. 043-233-9671

役員改選 林孝二郎新会長に

3期6年の鈴木一郎(昭和35年卒)と交代

新しく池田知行(昭和54年卒)副会長

退任のご挨拶



同窓会前会長 鈴木一郎
(昭和35年卒)

令和2年。西暦2020年。
オリンピック、パラリンピック開
催の記念すべき年、千葉校同窓
会の皆様にはご清祥にて新年を
お迎えのことと思います。

私こと平成26年(2014年)
千葉高同窓会長をお引き受けし
て3期6年間会長を務めさせて
いただきましたが、この度退任

することといたしました。この
6年間、会員の皆様のご協力ご
支援のおかげで無事にその任を
果たす事ができましたこと、こ
の場を借りて御礼申し上げます。

特に、事務費援助の目的では
じめた一口千円のご寄付の願
いは、広く会員の皆様のご理解
を得て順調に伸び、同窓会事務
室の整備をはじめ、会員名簿の
データベース化、同窓会報の増
刷、配布先の拡充に努めること

ができました。むろん事務局の
献身的働きで、今年は8000
部の会報が会員の皆様に届く予
定です。

また各地で行われている地
域葛城会、職場での葛城会など
様々な葛城会にもご招待をいた
だき、毎年楽しく参加させてい
たできましたことは、私にとって
良い思い出になりました。

私の後任は昭和39年卒の林孝
二郎さんをお願いしました。さ
らに千葉高同窓会の充実、活
性を図ってくださると思います。
これからの母校の発展とともに
に、千葉高同窓会も益々盛ん
なることを期待しています。

(令和2年 元旦)

会報第48号 もくじ

退任ご挨拶	前会長 鈴木一郎	1
就任ご挨拶	会長 林孝二郎	1
校長報告	学校長 佐藤 幸	2
会報によせて	葛城の花会長 永田忠以	3
事務局近況	事務局長 阿佐幸雄	3
会報寄付者一覧		4
支部だより		5
OB会だより		8
学年短信		11
同窓会からのお知らせ		19
葛城人脈⑤		20
同窓会母校支援活動		22
中学・高校部活動報告		23
令和2年度定時理事会報告		24
葛城だより・編集後記		24

会長就任のご挨拶



同窓会会長 林 孝二郎
(昭和39年卒)

千葉高同窓会の皆様には、ご
清祥にて新たな年をお迎えのこと
と思います。

日ごろから同窓会事業にご協
力ご支援をいただきありがとうございます。
昨年は度重なる台風の
襲来で災害の少ない千葉県にも大
きな被害をもたらしました。同窓
の皆様の中でも被害にあわれた方
がおられると思います。心からお
見舞い申し上げます。地球温暖化
のせいでしょうか、千葉県は安全
という神話はもはや過去のものと
なってしまうかもしれません。日ごろの備
えの大切さを改めて感じた次第で
す。今年はオリンピック、パラリ
ンピックが開催され、千葉県内で

もいくつかの競技が予定されてお
ります。農業、中小企業、観光
などまだまだ復旧、復興の途上に
ありますが、暗い空気を吹き飛
ばして元氣な明るい年になるよう
願っております。

さて、ご挨拶が遅れましたが、
私、令和2年1月18日に開催さ
れた令和2年度定時理事会にお
いて、鈴木前会長のご推挙をいた
だき、理事の皆様のご承認を得て
千葉高同窓会会長をお引き受け
することになりました。

ご案内のように、同窓会は戦
後の昭和21年に発足し、初代永
井準一郎氏から数えて私が第9代
目となります。この長い伝統を誇
る千葉高同窓会の会長を務めさ
せていただくことは大変光栄であ
りますと同時に、その重責を痛

感じております。これまで副会長を2年間務めたとはいえまだまだ同窓会の運営に関しては慣れないことも多く、副会長はじめ役員の方々、会員の皆様のご指導とご協力によりこの大役を果たしていきたく存じますのでよろしくお願いたします。鈴木前会長は同窓会報やホームページの充実、同窓会名簿の整備とデータベース化など同窓会の運営改善に多大の功績を残されました。会員の皆様の寄付を募り、これまで総会や支部同窓会の出席者にしか配布できていなかった同窓会報が、昨年度には7500部印刷され、3500部を総会等の出席者以外の同窓生のもとに郵送で届けることができるようになったことはその1例であります。

本同窓会の目的は会則にあるように、「会員相互の融和向上を図るとともに母校の充実発展に寄与すること」であります。母校の支援のため様々な事業が行われている一方、会員相互の親睦という点では物足りない点があると感じています。千葉高同窓会は会員38000人余の大所帯です。同期会、各地の支部葛城会、クラブOB会などによる会員の交流がきめ細かに図られることが重要です。このためなるべく多く

の会員に学校や同窓生の活動など様々な情報を提供することにより同窓会をより身近に感じていただき会員相互の絆がさらに強くなるよう、努めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

会長略歴

昭和21年生まれ 千葉市立本町

校長報告



校長 佐藤 宰

千葉高校同窓会の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動にご支援を頂いておりますことに感謝申し上げます。

昨年の9月から10月にかけて、千葉県は台風15号・19号、その後の集中豪雨による甚大な被害を受けました。被災した方々に心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。千葉高校でも台風により化学室脇や弓道場裏の大本が5本ほど折れたり、弓道場のシャッターやグラウンドの照

小、葛城中卒業、昭和44年東京大学工学部都市工学科卒業後建設省入省 国土庁大都市圏整備局課長、東京都開発計画部長、千葉市副市長、帝京平成大学教授などを歴任後、平成23年より(株)かずさアカデミアパーク代表取締役社長 現在に至る家族：妻と2男1女 現在、千葉市中央区在住

明が壊れるなどの被害を受けました。また、10月25日には、集中豪雨のため交通機関が止まり、約30人の中・高校生が学校に泊まりました。学校は、危機対応の重要性を痛感させられ、生徒の安全を確保し安心な学校生活を送れるよう最大限の対応が求められました。卒業生の皆様にも大変なご心配をおかけしましたが、お陰様で、その後、復旧作業も順調に進みました。

台風19号が千葉県から離れた10月13日に、校舎内外の被害確認のため、学校の屋上に上りました。その時、屋上から見た西の方の様子は素晴らしく、今でも

鮮明に覚えています。東京湾、対岸の神奈川県、丹沢の山々、富士山そして真青な空をはっきり望むことができました。ここまで、はつきりと見たのは初めてのことでした。私は、思わず「これが先輩方が、昔見た景色なのだろう。校歌に歌われている『袖が浦辺の明け暮れに波路はるかに仰ぎ見る富士の高根のすなおさはわれら健児の生命なり』の情景なのだろう」と、被害確認も忘れ、しばらく見入ってしまいました。

波路はるかに仰ぎ見る

富士の高根のすなおさは

われら健児の生命なり』の情景なのだろう」と、被害確認も忘れ、しばらく見入ってしまいました。昔は、一膳坂(二杯坂)からこの景色が見えたのでしょうか。上がるのはきつい坂でも、下りは、この素晴らしい景色を見ながら、きつと充実した気持ちで帰ったのだらうと思いました。

今でも、夕日の素晴らしい時は、生徒がスマホで写真を撮っています。たぶんインスタ映えがするのでしょう。また一つ、千葉高校の良さを知ることができました。

今年度も、「総合的な学習の時間」等において、各界で活躍している先輩をお招きして、最新の事情や進路上の心構えについて講演をいただきました。

6月の一年総合学習・外部講師講演会では、塩谷光彦様(昭

52卒)から周期表を使った分子レベルのものづくりに関するお話をさせていただきました。その際、同学年の長英連様にもおいでいただきました。塩谷様は、生徒の雰囲気や40年以上前と変わっておらず、礼儀正しい生徒に会えてうれしかったと感想を述べておられました。

10月の二年総合学習・外部講師講演会では、野村竜一様(平7卒) 東寿浩様(平12卒)、鈴木裕介氏(平成12年卒)、作田豊様(平12卒)、佐々木俊介様(平12卒)、寶川紘司様(平14卒)、小野口玲菜様(平18卒)、鹿渡俊介様(平18卒)に、それぞれ分科会に分かれて講師をお願いいたしました。

また、「大学の先生による模擬授業」にも協力をいただきました。5月には錫田駿様(平20卒)により、「古くて新しい『くつつける』の科学」と題して、溶接工学の基礎や最新の研究事例について講義を行っていただきました。

他にも、間接的に本校生徒のために協力をしていただいた先輩方もいらっしゃいます。この場を借りてお礼申し上げます。また、来年度も、引き続き本校生徒の教育活動の充実のために同窓会の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

同窓会報に寄せて



葛の花会会長

永田 忠以

(昭和37年定卒)

天皇陛下御即位の一連の国家行事が晴天のもとに行われた祝賀御列の儀をもって恙無く執り行われ、また皇室行事としての大嘗宮の儀も厳かに斎行され、いよいよ令和の時代が始まりました。

太平洋戦争まったただ中の昭和17年8月19日に生まれた私ですが、戦後入学した時は県立千葉第一高等学校という名称であり、在学中に現在の千葉高等学校と改称されました。当時は全日制の学生は白線の入った学帽、定時制の生徒は白線の無い学帽にて通学をしていました。

在学当時から現在も現存しているのは正門の二柱と講堂のみになります。通学時にあったプールは建設時に千葉中時代の先輩が手伝っていたという話や戦中は構内で三八銃の持ち方の訓練などがあったことなどを聞かされました。自身としては

売店が時計台のあった中庭にあり、そこであんパンを買って食べたのは懐かしい思い出としてあります。また自宅が学校を見上げる場所にあったことから、化学室が火事で炎上しているのを恐怖の心境で見たことも思い出されます。

定時制では勤労生徒が多く、夕方電球が点る頃に母校の坂を上り登校し、成人に達していた生徒のために喫煙室があり、そこでタバコを吸う姿が見られました。また母親と同じくらいの年齢の女性と机をならべるなど、定時制こそ様々な同級生との出会いがあるのも楽しいものでした。

在学中は美術部と柔道部を掛け持ちしており、柔道部の思い出では練習中に受け身を取り損ない左腕を完全脱臼したのですが、古い道場であったので床が抜けたのではないかと一瞬勘違いしたことがあります。また練習後にプールをお風呂代わりに泳いだのも懐かしいです。美

術部では全国油絵展覧会に入選し、作品を上野まで運んだことも良い思い出であり、卒業後も母校の美術館に自分の作品が展示される時期もあり、嬉しいものでした。

当時の学生生活の風景はおそらく今の生徒たちには想像できないかと思いますが、全日制では自動車部というものがあり、校内で運転の練習をしていたかと思えます。定時制ではオートバイや自動車に通学していた生徒もいました。その中には下校時の下り坂でスピードを出しすぎ、突き当たりの塀にぶつてしまった生徒もいました。

葛の葉茂る丘の母校は今、明治、大正、昭和、平成という長い歴史を経て、令和という新たな御世へと進んでいきますが、私が高校時代を振り返るだけでもいろいろな思い出が出てくるように、多くの卒業生がそれぞれの時代において母校での思い出を持ち、また在校生も今の高校生活に思いを掛けている、それが連綿と母校の歴史となっていくのではないのでしょうか。

まとまりない思い出話となりましたが、思い出と共に千葉高校の歴史の一端のエピソードとして筆を置きたいと思います。

同窓会事務局の近況報告

同窓会事務局長

阿佐 幸雄

(昭和35年卒)

前号も先輩の逝去のご報告記事からでしたが、今号も残念ながら報告からとなります。

平成26年3月30日に竣工した新運動場整備事業に多額のご寄付をくださった、千葉葛城会会長の佐川信夫先輩(昭33年卒)が6月17日に逝去されました。

この事業は、中学校が併設されたことにより運動場が不足している母校に、学校隣接の県有地を同窓会が整備し、運動場を学校に寄贈するというもので、平成24年5月から平成25年4月迄の1年間で7500万円の募金を募りました。募金が伸びず大苦戦していた時に、会社から3000万、個人として135万円のご寄付をされようやく運動場の整備を行うことができたのでした。その他同窓会組織検討委員長として1年間会則変更にご尽力いただきました。誠に惜しい方を失いました。 合掌

常務役員会の定例化

平成25年に佐川委員長組織

検討委員会により会則の改定案が作成され、それまで総会で行われていた議案の議決を、定時理事会に変更しました。

また、正副会長のほか、事務局長・会計・委員長で構成する常務役員会が事業を運営するように変更しました。

しかし、何もないところからのことでしたので、常務役員会を開くこともできませんでしたが、平成29年から開催し、昨年度は年4回の開催を定例化することができました。

名簿データベースの現状

平成28年12月に完成した同窓会名簿データベース(以下DB)は、29年より試用を開始しましたが、現在、明治14年卒から平成31年卒までの37581名が登録されています。

昨年は、平成31年卒(第71期生)の名簿の取り込みの他、各種の改修を行いました。

当初DBは、同窓会総会や各年度の同期会への対応に焦点を当てて作成しましたが、その後、

地域葛城会支援のため、複数住所からの検索・抽出が出来るようになりました。今回も、検索項目を細分化するなど将来に備えた改定を行いました。

名簿データベースは、「定時理事会」や「総会・懇親会」の案内発送や参加者の集計に威力を発揮しています。

名簿委員のご推薦を

今年度から各年度の信頼できる管理者にIDとPWを発行し、そのIDとPWで年度の名簿へのアクセスを許可します。

年度の名簿管理者(名簿委員)には、同窓会の名簿委員長が各自と面談のうえ、DBの主旨とマニュアルを理解していただいた上で名簿委員に任命します。

名簿委員は、DBの同期名簿データの修正作業を行います。DBは個人情報情報の塊ですから、常にセキュリティに留意することが求められます。

各年度の名簿委員は、同期会案内の発送データのダウンロードやメールの発信を行うことができます。

会報配布と寄付状況

かつて会報は、同窓会総会や

地域葛城会や在校生を通じた配布などが主でしたが、平成28年から鈴木前会長の肝いりで個別配布をはじめました。会報送付の折に寄付依頼を行いました。多くの方々のご賛同を頂き、額のご寄付を頂いています。

ご寄付のお陰で、発行部数や配布数も増えました。また、多くの方の目に触れることで内容も充実しています。

会報の発行部数と個別配布数、寄付人数と寄付金額は下表のように推移しています。

会報寄付者一覧

1万円以上の寄付者名は太文字

(敬称略・卒年順)

葛の花会	三十年会	野球部OB会	【昭和14年】	森 左千夫	【昭和19年】	吉井泰夫	【昭和20年】	中村 彰	秋場 秀一	【昭和23年】	小出善三郎	近藤 栄一	斎藤 俊和		
【昭和25年】	朝比奈 浩	【昭和26年】	秋庭尚正	久山 敬	能勢 仁	【昭和27年】	椎名嘉一	松本義明	明智克夫	渡辺 誠治	【昭和28年】	安田 博亮	阿部 猛	鳥谷 年子	掛橋 文夫

同窓会報の個別配布・寄付状況

年 度	平成31年度	平成30年度	平成29年度
会報号数	第48号	第47号	第46号
発行部数	7,500	6,500	6,500
個別配布数	3,500	2,610	1,500
寄付人数	173	192	105
寄付金額	1,020,000	1,122,000	737,000

※ 令和2年度の第49号は、8,000部発行、個別3,800部の予定

昭和29年	上林 明保	昭和30年定	山下 庸明	昭和31年	高橋 宏	安達 厚見	林 晴男	小野 彌栄子	昭和31年定	高澤 正	昭和32年	小林 礼子	昭和33年	瀬山 俊一	篠崎 玄幸	磯貝 正透	板倉 章治	片野 武夫	榎本 敦夫	
昭和34年	外山 孟	荒木 三喜子	高橋 常雄	藤本 治宏	石井 豊信	米田 喬	昭和35年	片岡 寛	茂田 徹	増田 繁	高橋 淳一	田中 正彦	富沢 誠二	鎌田 修	昭和36年	木田 政教	岡本 裕之	大和田 恭	川島 一郎	土屋 富士雄

北島 康史	山田 智秋	【昭和37年】	金井 輝	押尾 衛	間山 素行	堀野 雅子	駒井 隆子	【昭和37年定】	永田 忠以	【昭和38年】	宮原 忍	宮本 四洲雄	【昭和39年】	長谷川 利弘	大森 耕一郎	山田 雅敏	日暮 久嗣	林 孝二郎	村杉 雅敏	今村 文彦	浜田 敏男	土肥 哲英	植草 健夫	河西 亨	長谷川 和敏	加藤 健	荒井 薫	【昭和39年定】	中村 ミヤ子	【昭和40年】	伊藤 兼六	廣瀬 彰	太田 芳則	小野 豊	正木 和子	島田 宏子	渡辺 俊夫	元榮 川常	
木村 光男	松永 三和子	宮間 暎治	加藤 博子	近藤 恭弘	板倉 喜一郎	和田 正民	浜名 賢一	林 美智代	沖 博之	宇田川 民江	伊澤 勝行	五木田 信義	【昭和40年定】	西川 芳雄	【昭和41年】	川嶋 一夫	菊地 良久	吉川 文夫	金親 博榮	【昭和42年】	久保田 光一	松崎 昇	並木 厚	【昭和42年定】	高石 功	【昭和43年】	山本 和夫	小名木 真理子	早川 廣美	小出 敏明	矢野 やよい	桜井 早苗	【昭和44年】	安藤 裕子	登玉 芳雄	山森 眞紀	斉藤 勉	中山 義雄	長谷川 博
富永 正道	西山 恒夫	長谷川 康行	羽田 達夫	中村 一美	藤平 真一郎	坪和 光二郎	丸岡 祥世	【昭和44年定】	並木 伸幸	【昭和45年】	水谷 正彦	高倉 史朗	【昭和45年定】	浪方 日出男	【昭和46年】	湯川 昌彦	佐藤 祥子	上原 和男	山田 秀二	【昭和47年】	平岡 映子	西原 美穂子	今関 文夫	【昭和49年】	木村 友久	藤縄 和代	【昭和50年】	岩崎 義宣	園部 智史	星野 智史	【昭和51年】	須藤 輝男	木村 次郎	松田 一郎	【昭和51年定】	鈴木 一郎	【昭和52年】	脇谷 義朗	
【昭和53年】	小口 学	児玉 信一	【昭和54年】	関 陽児	森塚 伸	澤本 和徳	中島 真理子	川副 千尋	【昭和55年】	丸山 敬子	【昭和57年】	松鶴 文靖	【昭和60年】	倉持 宏明	【昭和61年】	安田 有希子	小島 桂子	【平成2年】	岸 雅人	【平成3年】	熊崎 正人	【平成4年】	中田 弥生	稲田 恵美	佐藤 雅信	【平成9年】	武井 敬	【平成12年】	依田 美佐恵	【平成18年】	鹿渡 俊介	【平成26年】	橋本 幹彦	【平成27年】	河木 遼				

支部だより

☆長生茂原葛城会

会長 加瀬 元

(昭和36年卒)

例年通り10月第1週の土曜日(5日)第64回長生茂原葛城会が開催されました。

本年は5月1日から令和と年号が改元され、また長年会場であった「茂」が道路拡張の為、仕事を止められた影響で、新しく「竹林」に変更になりました。

出席の方々には、戸惑いがあった事と思われます。今回は、同窓会事務局長・阿佐幸雄氏(昭和35年卒)、現場の井上副校長のご臨席を頂き、13名の出席者でした。相変わらず、若手の参加者が少ないのはさびしい限りですが、その中で1つだけ喜ばしい事がありました。それは穴倉会員の紹介で、昭和57年卒の中村俊太氏が新しい会員として参加してくれた事です。今後本会の発展に寄与される事を祈っております。

まず最初に6月に亡くなった白子の大多和俊行会員(昭和36年卒)7月に亡くなった永野剛



元会長(昭和26年卒)河野義尚会員(昭和28年卒)のご冥福を祈って黙祷が捧げられました。

今年は9月と10月の二度に亘って、台風により、大きな被害がもたらされたり、10月からは消費税が10%に増税され、今後の景気の先行が心配されたり、ラグビーのワールドカップが行われたりといろいろな事がありますが、古き良き千葉高時代の思い出に花を咲かせ、しばし、楽しい時間を過ごしました。最後

にソングリーダーの藤井会員の指導で校歌を合唱し、来年もまた、元気で再会できる事を祈って散会となりました。

☆東京葛城会第60回総会

事務局長 桑野雄一郎

(昭和60年卒)

令和元年10月11日に、

東京葛城会の総会が開催されました。大型台風が接近中ということもあり、佐藤宰校長先生及び鈴木一郎同窓会長など、やむなく急遽ご欠席となった方もおられました。が、教員OBの鶴田忠雄先生をはじめとする来賓をお迎えすることができました。総会に引き続き懇親会が開催され、悪天候にもかかわらず80名を超える卒業生が集いました。建築環境からのSDGsに取り組む建築士の山田貴宏さん(昭和60年卒)による「環境と人を繋ぐ建築」と題する講演の後、元野球部監督の嶋田政昭さん(昭和49年卒)、元野球部の遠山

宏樹さん(昭和60年卒)による「県立千葉高野球部史」と題するミニトークショーが行われました。かつての野球部及び野球部OBの華々しい活躍ぶりが紹介された後、これから千葉高が甲子園出場を果たすための作戦が



熱く語られました。プロ野球中継で有名な元日本テレビアナウンサーの吉田慎一郎さん(昭和40年卒)による素晴らしい司会進行もあり、会場は爆笑に包まれるなど、大いに盛り上がりました。今後も東京葛城会が末永く同窓の架け橋となることを願います。

☆東金葛城会

幹事 岸本雅邦

(昭和39年卒)

第41回東金葛城会の総会は、平成31年4月14日 東金の割烹



志津本で15名の出席をいただき、来賓として鈴木一郎同窓会長、佐藤宰学校長をお迎えし、和やかな雰囲気の中で開催いたしました。

当日開催したゴルフコンペの話や近況を語りながら楽しいひと時を過ごすことができました。

会の会長は本年度より33年卒の佐久間 邁氏にお願いする事になり、冒頭のご挨拶で楽しい同窓会になるようにがんばりたいと抱負を語られました。

幹事の最近の悩みは参加人数がだんだん減ってきている事です。出席の会員に同級生への声かけをお願いしているところですよ。

☆木更津葛城会

幹事 根本 駿輔

(平成16年卒)

2年おきに開催している木更津葛城会は、令和元年11月3日に、木更津駅前に新設されたワ



シントンホテル木更津にて開催されました。

佐藤校長、鈴木同窓会長、事務局から沢田様にもご臨席賜る中、30代以下の初参加者4名も含む17名の出席となり、無事盛会に終わりました。当日は最近の千葉高の様子を写真で見ても、直前にあった台風被害に心を痛めつつも、新たに整備された中学校舎や運動場などについて佐藤校長からご解説いただきました。

木更津葛城会の地区(袖ヶ浦

市・木更津市・君津市・富津市)が正式に千葉高の学区対象となったのは平成16年卒の代からです。対象人数が多くはない地区ですが、若手にも参加いただいで心強い限りです。木更津葛城会のFacebookグループも作成しましたので、ゆかりのある方はそちらもぜひご参加ください。

☆成田葛城会

会長 松田 徹之

(昭和39年卒)

第17回成田葛城会を令和元年12月1日に成田市内の「ひかたや第二支店」にて開催いたしました。

同窓会から林孝二郎副会長、高等学校からは井上功太郎副校長にご臨席を賜りました。林副

会長からは同窓会の近況報告や会報の発行部数・配布数が増えていることなどをお話しいただき、井上副校長からは学校の現況及び在校生の学業や部活動での活躍等についてお話しいただきました。同窓会・学校ともに

色々とご努力をされていること



に会員一同納得するとともに、さらなる発展をご期待申し上げます。また、佐倉葛城会からは山田敏夫会長にご出席をいただきました。

当会会員の参加は12名とこれまで一番少ない参加数ではありましたが、新たに参加してくれた方や久しぶりに参加してくれた方もおりました。また、林副会長は成田の太鼓祭りでは太鼓を敲かれたとのこと、井上副校長は成田市の教育委員会や小学校

に在籍されたことなど成田にご縁のあるご来賓をお迎えできて懇親会も盛り上がりしました。また、学生時代の思い出や会員相互の近況報告などに花が咲き、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

今回の成田葛城会の開催に当たっても、地域の葛城会を存続させていくためには、若い会員の確保が必要であると強く感じるところであります。

☆船橋葛城会

世話人代表 中山 泰正

(昭和42年卒)

令和元年の船橋葛城会は第40回の記念総会として、6月2日の日曜、船橋グランドホテルに於いて50名の参加のもと開催されました。記念の会でしたので写真を中心とした小誌も発行しました。表紙のデザインは楽書家の今泉岐容子さん(昭和59年卒)にお願いしました。表面のデザインは多くの方々が大傑作だと評判です。また、今回の総会前ミニ講座はテレビ東京の「開運! 何でも鑑定団」でおなじみの増田孝さん(昭和42卒)が「伊達政

宗本人の書状(本物です)と題して古文書読解講義をしてくださいました。しかも本物を持参してくれたので講義終了後にホテル関係者も押しかけて見た程でした。それと会の後半で恒例の百人一首を用いた「お楽しみ抽選会」を行なったのですが世話人が用意する景品に加えて全員の皆様が持つて来て下さったものが年々多くなり、今回は司会者が時間の遣り繰りに追われてしまいました。勿論、景品で最も盛り上ったのは「来年の船橋葛城会無料優待券」でした。

船橋葛城会好評企画の春と秋の散策コーナーでは、春は猪鼻公園・千葉高校・千葉寺・青葉公園・千葉高校・千葉寺・青葉公園へと桜のリレー花見に出掛けました。千葉高校の際には現役教員の佐々木浩志先生(昭和56年卒)に校内の施設や教室の案内を、そして今の生徒の生活を報告していただきました。

秋は神田神保町の古本市と一ツ橋地域の散策をしました。小学館・集英社・共立女子大学・学士会館・如水会館・旧一橋大学跡・明治大学等々歩きました。さて皆様は問題です。「七五三太公園」何と読むのでしょうか。

た、どうしてこの様に発音する事になったのでしょうか。誰に係するのでしょうか。

次回の船橋葛城会は令和2年6月7日(日曜日)です。

☆千葉市役所葛城会

会長 小早川雄司
(昭和54年卒)

千葉市役所葛城会は、新入会員2名が加わり86名の会員がおります。例年、本会は千葉高同窓会総会の翌週を目途に開催しておりますでしたが、今回は、少し遅くなり、平成31年3月15日に16名の会員参加のもと開催いたしました。場所は、ここ数年、若手職員が参加しやすいカジユアルなお店ということで、市役所から近いということもあり、寶川絃司さん(平成14年卒)のお店「TREASURE RIVER book cafe」(トレジャー・リバー・ブックカフェ)で開催しました。

会は、新役員の紹介、新入会員の石川ゆかりさん(平成25年卒)の紹介の後、乾杯で懇親のスタートとなりました。美味しいお酒と料理を楽しみながら、年に一度ではありますが、世代を超え

て、高校時代の話や仕事上の意見交換などにも華が咲き、会員相互の交流を深めることが出来ました。

☆るのはな一杯会

(千葉大学医学部)
会長 田邊政裕
(昭和42年卒)

令和元年6月22日、京成ホテルミラマールにて、平成31年度るのはな一杯会が開催されました。会員は、千葉中学校、千葉第一高等学校、千葉高等学校を卒業し、千葉医学専門学校、千葉医科大学、千葉大学医学部及び医学部附属病院に在籍した、あるいは在籍中の医師および学生であり、卒業生22名、在学生13名が参集しました。会長より開会の挨拶があり、その後総会が開催されました。今年度は新入生が7名(男子6名、女子1名)でしたが、3年生の石毛昭太君が中心となつて会の企画・運営を担当し、会計報告や今後の運営などが討議されました。



その後、最年長の市川邦男先生(昭25年卒)の乾杯の挨拶があり、懇親会に移りました。今年度は在学生が少ないということで恒例のワールド・カフェは企画されませんでした。長嶋晟先生(昭和25年卒)が初めて参加されるなど、従来あまり参加されていなかった先生方のご参加が多くあり、大変盛況でした。参加者一同集合写真を撮り、その後閉会となりました。

☆千葉銀行葛城会

会長 小野雅康
(昭和60年卒)

千葉銀行葛城会は今年度も新たに2名の新入会員を迎え、現在、現役会員128名及びOB会員12名の総勢140名の会員がおります。令和元年度の総会は7月10日(水)京成ホテル・ミラマールにて開催し、62名の会員の皆さまにご出席いただきました。当日は、佐藤宰

校長先生をはじめ、官民の第一線で活躍されている6名の来賓の方々をお迎えしました。

会では、最近の母校の様子を校長先生から詳しくご紹介頂いたほか、ご来賓の皆さまからもご挨拶を頂戴しました。毎年演奏をお願いしている千葉高校合唱部からは、合唱部員27名(引率・飯田仁志先生、布袋田由紀先生、進藤浩子先生)により、素晴らしい合唱曲を披露していただきました。また、新入会員から自己紹介と決意表明があり、蛭田隆さん(昭和36年卒)から激励の言葉を頂戴しました。あつという間に楽しい時間が過ぎ、前会長の池田知行さん(昭和54年卒)より会長の引き継ぎが行われた後、参加者一同で校歌を斉唱し、お開きとなりました。

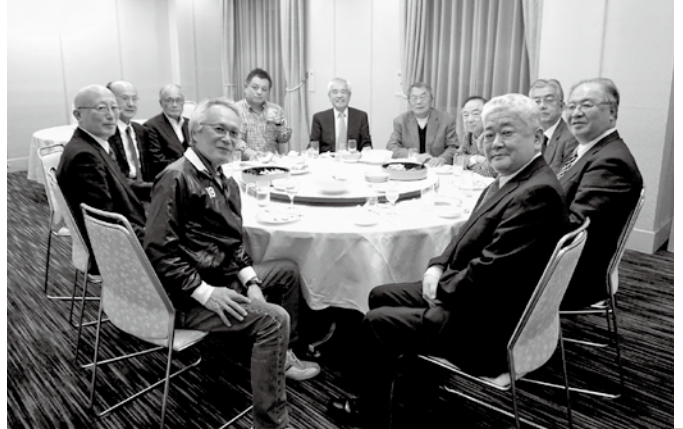
☆葛城建友会

会長 神代隆史

(昭和47年卒)

今年度より会長を仰せつかった神代(こうじろ)と申します。

葛城建友会は昭和42年卒の大



浦明さんの手打ちそばを楽しむ8月の「蕎麦会」12月の忘年会及びその他の月の月例会を開催しており、年間12回の会合を楽しんでいます。その他にも事務局長に就任した昭和47年卒の豊田淳郎さんが種々イベントを企画して実行しはじめています。

また、これまでは毎月第3火曜日に開催していた月例会を今年度からは会員の参加機会を増やそうと奇数月は第3火曜日、偶数月は第3木曜日に開催する

ことを試行しています。

370回以上の月例会を重ねてきている会ですが、参加は会員各自の都合次第で強制は全くありません。月例会は千葉県庁近くのホテルプラザ菜の花で午後6時半から開催しています。

昭和30年代から平成の卒業生まで幅広い年代と多彩な職業人の集まりとして料理にお酒、そして会話を楽しんでいます。

ご興味のおありになる方はどうぞお越し下さい。

余談ですが、千葉中・千葉高第二グラウンドの建設に当たっては複数の当会会員が実行委員として協力致しましたことを申し添えます。

神代連絡先

(090-11113-7297)

☆清水葛城会(清水建設)

上倉理香

(平成19年卒)

令和元年度の清水葛城会が12月13日、東京・銀座で開かれ、清水建設(株)の現役OBのメンバー39名のうち15名が参加しました。

今年の会合には、昭和33年ご卒業の杉田稔先輩が初めて

参加され、清水建設の現役から会社の中で高校同窓の集まりがあることを羨ましがられた、などのお話がありました。また昭和35年ご卒業の田村昭南先輩や昭和40年ご卒業の吉田和夫先輩、昭和43年ご卒業の並河幸治先輩、川野辺道夫先輩などからの楽しい思い出話などで、会場は大いに盛り上りました。

来年は、年を経るごとに益々元気になられる先輩方に負けないうよう、現役の参加をもっと増やしたいと思っています。



OB会だより

☆水泳部OBOG会

葛城水泳会会長 宮下賢一

(平成2年卒)

9月7日(土)、令和最初の葛城水泳会(水泳部OBOG会)総会が行われました。現顧問福原先生のご尽力で老若男女が集う同窓会が3年前に復活し、当時の新入生も今年からは卒業生として加わりました。毎年9月第一土曜日は「13時プール集合!」

水泳部では昭和45年からの約35年間は水球が主体だった経緯から、この日だけは水球も復活。前日までに水深を上げておき、前半に現役卒業生対抗リレーを行った後は、当時を知る卒業生が主導してプールサイド片隅に眠る水球ゴールをセットし、いよいよ開始です。2週間後の新人戦に向けては各競泳種目で日々練習に励む現役生も、この時だけは水球選手。足がつかない水中で相手と競り合いながらサッカーと同じ大きさの水球ボールを追い、投げることは容易ではありませんが、経験者OBから若手OBや現役生に対し、



基本技術と共に球技の楽しさを伝えます。そして夕方からは懇親会、ここから参加の卒業生も多く、80代の大先輩もいらっしやいます。福原先生から現役生の活動報告もあり、今年は付属中学から有望な新人が進級したと

のこと。文献によると、来年は初代プール造成かつ創部90周年のようです。今年参加されていない方も、来年は是非「プール集合」でお会いしましょう。

☆県千葉バレー部 OB・OG会

会長 木之本 省治
(昭和40年卒)

バレー部OB・OG会は平成22年に第一回の総会を開催。以降会員の親睦と交流を深め、現役部員を支援してきました。

当初、総会は3年に1回の開催でしたが、第3回目の開催以降は隔年とし、昨年の第4回目の開催では創部70周年記念総会として盛り上がりました。また、隔年では年代を超えた会員相互の交流に不足もあるのではと考え、今年は費用をかけずメールで案内できる方と同年代で誘いあう形で懇親会を開催しました。

懇親会はJR千葉駅西口にある「ビストロえびすや」を借り、3時間の予定を短く感じる時を過ごしました(この店はサッカー部OB



会で利用されていることを知り予約)。集まった年代は昭和30年から61年の30年間の卒業年代。総会ですが、まだ仕事忙しい方や子育て中の方の参加は少ないです。その方達が何年後かには集まれる場を継続しようと考えています。

今年も現役支援にボールを送りましたが、東京オリンピックを前にMIKASAもmolttenもニューモデルとなり値上がり。消費税も上がったので今後の支援を充実するためにより多くのOB・OGで協力していきたいと思っています。ホームページは「県千葉バレー部O

B・OG会」で検索できます。訪問を歓迎致します(訪問数をカウントしています)。

☆野球部OB会

会長 嶋田 政明
(昭和49年卒)

野球部OB会の昨年の活動は、1月12日(土)新年会(三井ガーデンホテル)、2月3日(日)ゴルフコンペ(大千葉CC)、3月24日(日)予餞会(OB会入会式)(ハーモニープラザ)、4月13日(土)早朝野球開幕(千葉葛城倶楽部チーム)9/28、5月6日(月祝)千葉商業高校との定期戦(現役戦、OB戦ともに●)、8月12日(日)OB野球大会一回戦(対成東高校OBチーム●)、8月11日(日)千葉高グラウンドで世代別対抗戦(奇数学年対偶数学年)、10月11日(金)野球部OBが東京葛城会でトークショウ、11月9日(土)ゴルフコンペ(ゴルフデックロス)。

10月11日(金)の東京葛城会では野球部の二人の大先輩を取り上げさせていただきました。

「幻の巨人軍の4番打者」伊藤健太郎さん(昭和9年卒)と「月に



向かって打て」飯島滋弥さん(昭和12年卒)です。伊藤先輩は昭和6年と7年に甲子園出場した先輩で「もし戦死しなければ巨人の4番は川上哲治さんではなく、伊藤さんであっただろう」と言われる先輩。

飯島先輩は昭和10年と11年に甲

子園出場し、プロ野球で1イニング最多打点の記録を持ち、ヤクルトの監督、コーチ、名解説者としても活躍され、「月に向かって打て」の名フレーズが有名な大杉選手を大選手に育てあげた名伯楽の先輩です。

☆弓道部OB会

副会長 徳村万貫夫
(昭和45年卒)

弓道部男子団体は、2年連続で高校総体出場を果たしました。昨年、今年といずれも予選を突破して準々決勝進出。準決勝進出はなりませんでしたが、2年連続で6位入賞！しかも今年は「技能優秀賞」に輝きました。これは「団体として、入場から退場に至る射場内の動作・態度、弓を射る技術と姿勢・動作のほか、武道に対する基本的認識なども評価される」とのことです(「エールスポーツ千葉」より引用)。

男女を通じて千葉県勢初の表彰です。この後輩たちの活躍を少しでも応援しようと、OB会では早速募金活動を開始。とりまとめた「遠征支援金」を8月のある日、同じ副会長の森さん(昭和44年卒)と共に、夏季練習



中の弓道場を訪れて手渡ししてきました。その際、森さんが挨拶のなかで「弓道部発足の頃は県内で最もヘタであったろう学校が、全国で一番という評価の技能優秀賞とは夢のような思いです・・・」などと話す中、感極まつてしばし言葉に詰まる場面もありました。私も全く同感です。ここまで来られたのは、もちろん生徒諸君の努力があつてのことですが、顧問の古味先生の熱意にあふれた、的確な素晴らしいご指導の賜物と深く感謝申し上げます。なお、OB会の連絡を取ろうとしたとき、名簿のメールアドレスの管理が十分でなく、やや手間取った面がありました。この点をOB会としてさらに改善すべきと考えております。

☆山岳部OB会

会長 中谷和博
(昭和44年卒)

山岳部OB会活動の3本柱は、OB会総会・OB会山行・OB会報の発行です。

OB会総会は原則11月の第二土曜日に設定されています。今年はOB・OG合わせて26名、現役生4名が参加してJR千葉駅のペリエホールで開催されました。例年は1年間の活動報告の後、会員の近況報告に花が咲き2時間余りの時間があつたという間に過ぎてしまふのですが、事前の役員会で山行報告を取り入れようとの提案があり、PCを使い現役生の山行報告・OB会山行報告・南極での活動の様子・国内外の山行等がスクリーンに映し出されました。ただ、時間が無くなつてしまい、近況報告を楽しみにしていたOB・OGには申し訳ない事態となつてしまいました。今年のOB会山行は5月に東京都の奥多摩にある高水三山で行われました。この山行は家族・友人の参加も歓迎していますので、気軽に参加が可能です。今年は参加者が若干少なめでしたが、春の奥多摩を満喫することができました。



ができました。

OB会会報は、OB会総会の往復葉書に近況を書く欄を設け、この近況を纏めて3月に発送します。この会報にOB会山行の計画を掲載し、参加者を取りまとめています。近年、転居に伴い返送される会報が増えているのが悩みの種です。

☆剣道部OB会

会長 鮫島啓一
(昭和53年卒)

昭和28年にGHQの制限が解除され、母校の先輩有志の方々により戦後剣道部が復活して以来66年が経過しました。剣道部OB会は総勢600名に達する

規模となり、OB・OG間だけでなく高校・中学の現役部員と交流が続いています。

現在の活動は、①現役部員へ補助②月例稽古会③OB会総会④近隣高校剣道部OB会との稽古会を実施しています。

2019年度は、11月2日にOB会総会を開きました。総会に先立ち、母校剣道場にて現役部員との親善稽古会を行ない、久しぶりに顔を合わせるOBや現役部員と剣を交え、心地よい汗を流しました。その後の懇親会では各自の近況を報告し、相互の交流を深めました。楽しい時間はあつたという間に過ぎ、参





加者全員の記念撮影の後、総会は終了しました。
また母校だけでなく、東高など近隣高校の剣道部OB会が一堂に会し、毎年2月に親善稽古会を行っています。昨年度は千葉中の体育館をお借りして、多数の参加者が集まりました。今年度は東高で開催する予定です。稽古の後の懇親会での近況報告も楽しみにしています。

自分が現役であった頃にOBの皆様にお世話になったことを思い出しながら、少しでも現役部員の支援となる活動と共に、今後もOB会会員相互の交流の場を提供できたらよいと感じています。

学年短信

●昭和22年卒

斎藤 喜久三

戦時中の入学と戦後初の卒業と波乱万丈であった我々は改元の時この年全員が卒寿となった。

恒例の6月第1土曜日(令和元年6月6日)に同期会を西千葉みどりで開催、国をあげての慶祝等と長寿を諸兄は両手に花で昨年の同期会より若く成った様であった。いよいよ五輪も近づいて来て皆の合言葉「オリンピック迄は頑張ろう」通り話題は同窓諸兄姉もご存知の様に母校玄関前建立されている戦後第一回の五輪で日本で唯一の金メダルのレスリングの石井庄八先輩(在学中は柔道部)の愛弟子の川島、秋山の両兄による当時の回想で盛り上がった。良いスタートに恵まれ乍らただならぬ相次ぐ15、19、20号の災害は九十歳迄温暖な千葉県では経験した事もない事態になろうとは誰が予測できたであろうか。多くの方々が災難に遭遇されお気の毒であった。心配だった同期生達も同様



であったが、何とか凌ぐ事が出来た様でほっとした事でした。その後同期会の牽引力であった幹事の大庭利雄君が急逝され残念な事であった。奥さんで作家の大庭みな子さんを介護しながら、執筆も手助けした事は有名で、同窓会では我々の介護の鑑みと言われるお手本であった。彼もオリンピック迄の最提唱者だったので我々も五輪を見届けてやがては天上の同期会に入るので、頑張つて土産話を作らねばならない。

3月末に筆者斎藤は千葉県生涯大学の卒業式で千四百人の最高齢者として、学習を社会に還元旨の答礼をする。元氣印の我が昭和22年の同期会と同様に、益々元氣な母校諸兄姉には同期会で「身近から助けよう同期会の輪を」。常に意識して母校同窓会の盛大を願うものである。

●昭和25年卒

矢島 肇

我々の同期が「米寿」を迎えた。迎えられたのは同期の約1/3百名であり、他の人は「米寿」を見ず他界している。これから先サバイバルはどうなるか全く予知出来ないが、「米寿」を迎えた全員で通り過ぎたいと願っている。

「米寿」といっても各人なりに

お祝いをしている様だ。還暦、古稀、喜寿と「米寿」は少し趣が異なる様だと聞く。人生百年時代だからかも知れない。後期高齢者と言われる時代だが、「米寿」迄生きた人達の間からすると後期高齢者はせめて古稀位からでないかと思う。「人生五十年」と教えられ育った我々世代でも五十年はとも考えられない、五十年は戦国時代の暦じゃないか。

それとは別に我々が旧制中学に入学した頃の上級生にとって「人生五十年」は別の意味で理解していた事に思う。それは第二次大戦があったからである。人生五十年はおろか明日をも知れない時代だったからで、下級生だった我々ですら少しは感じていた。

同期に戦死者はいなかった。今、つくづく思う。「米寿」の有難さ、そして二度と「人生五十年」時代の訪れない事を。

●昭和27年卒 葛城二七会・三水会合同忘年会

發起人代表 明智 克夫

一昨年スタートした忘年会は今回第三回目となりました。

会場は昨年に続いて故木村君

の「百母亭」で開催し、益々お元気な早川俊一先生をお招きし32名が集いました。

今年亡くなった7名の冥福を祈り黙祷を捧げ、中村作二会長の挨拶に続いて早川先生の健康の秘訣についてお話を頂いた後、焼肉料理を囲んで大いに盛り上がりました。

我々の学年は総勢力400名に対して生存者が250名で63%と比較的高い生存率を誇っています。今回130名に案内状を出しましたが、約半数が体調不良のため欠席との返信でした。

今後、益々健康者の減少は免れないでしょう。日本人男性の平均年齢81歳を超えているので仕方がないと思います。

最後に椎名嘉一君のアカordeiオン伴奏で校歌を合唱し、深沢規夫君の音頭で三三七拍子の手拍子をもって互いの健勝を祈念し散会となりました。

一方、三水会は毎月第三水曜日に10数名の仲間で会食を続け、互いの親睦を深めています。

この間、石井 衛君、野城友三君、島海貞男君の3名が残念ながら鬼籍の人となってしまいました。

また、二七会ゴルフコンペは、昭和42年1月にスタートし元年10月に146回を数えました。

当初は20、30名の参加者でしたが、近年は10名前後でプレーを楽しんでいます。第150回コンペを最終回とし、令和3年3月に米寿記念ゴルフコンペを盛大に開催することを決めています。第1回から全員のスコア票を作成してありますので、最終回に全員に配布する予定です。80の半ばを過ぎて、プレーできる幸せは正に最高です。

●昭和28年卒

理事 市原利久

私達28年卒業生は昭和25年、新学制となり、初めて男女共学となりました「千葉第一高等学校」に入学いたしました。

卒業後19年を経て社会の中堅となった昭和47年4月23日、落成後間もない、千葉港の「千葉ニューパークホテル」に恩師を含め約160名が参加して、第



1972. 4. 23 千葉高等学校(昭和28年卒)同窓会 於千葉ニューパークホテル

一回の同期会を開催しました。

それ以後、随時、市内のホテル、レストランを会場に恩師をお招きし、100名前後の参加者で開催していました。

平成6年。前年より始まりました、還暦を迎えた学年による全学年の同窓会の幹事学年となり現市民会館前であった、パレ



スホテルに約160名の参加者を得て開催することが出来ました。

翌、平成7年より毎年4月上旬の日曜日、千葉駅前のセンシテイタワー23階の東天紅で開催していましたが、喜寿を過ぎ傘寿を迎えた頃には参加者も先細

りとなり、平成最後のこの年、会を閉じることとし、4月7日48名の参加者で47年間連続した会を閉会しました。会の最後に全員で校歌を高唱し、母校の隆盛を会員の多幸を祈念して会場を後にしました。

●昭和29年卒 福の会

中村浩紹

何時までも元気で集い、語り合いたいとの意気高く、毎年6月は千葉で、12月は東京で福の会を開催している。

令和元年の総会は、6月22日、京成ホテル・ミラマールにて出席者33名、忘年会は、12月21日、東武レバントホテル東京にて出席者30名が集い、長崎、名古屋の遠方からの友を迎え、二次会を含め延々約5時間もの宴席を賑やかに老春を謳歌した。

だが、体調不良で不参加者も段々増えつつあり、市原悦子さん、甲子園出場最後のエース植草光長君を含め5名が鬼籍に入られ、誠に寂しい限りである。友のご冥福を祈る。

令和2年の総会は、6月14日(日)開催予定である



●昭和30年卒 三十年会

倉 大塚 正明

5月としては異例の夏日続きも一服、明けて6月1日、令和元年度総会・懇親会が、京成ホ

テル16階のイル・ミラマールで開かれた。昨年よりも3人多い58人が参加。中でも、消息がやっとわかった山村哲雄君が数十年前ぶりに、川口由紀子さんが30年ぶりに姿を見せ、大きな拍手で迎えられた。また、昨年欠席した15人も参加してくれた。

主役はこの日も早川俊一先生。私達より一回り上の九十五歳とは思えぬお元気そのもの。毎年皆んな楽しみにしている「おことば」。

「来年はいよいよ東京オリンピック。楽しみだね。年をとっても悪い事ばかりじゃない、いいこともある。オリンピックもそうだ。私と握手すると十年若返る、と言ってきたが、私にとって、若い皆さんと握手することで、若さを吸い取っているんですよ。生きている限り出席するので、来年も呼んでください」。

十年ぶりの山村君も「皆さん年をとったろうと思って来たら、意外や若々しい人が多くてびっくり」と挨拶。田中政彦君から、自宅の庭で季節の花を咲かせてき

たきれいな写真集が8クラスに1冊ずつ寄贈された。最後は、田中君のハーモニカ伴奏で校歌を合唱、3時間の懐かしい時を終えた。

会が終わって早川先生、今年も西千葉の早川英明事務局長のスナックで開かれた二次会にも出席され、「ときめきのワルツ」なる若い人が歌うような曲を、若々しい声でうたいあげ、喝采を浴びた。ここでも「来年も来るよ」と言い残して、しっかりと足取りで店を後にされた。

●昭和31年卒(三一会)

山中 齊

毎年発行される母校の会報に、「三一会の「喜寿の会」や「傘寿の会」について「学年短信」として記載してもらってきた。

この順序で行けば、次は「米寿の会」となるのだが、それまでには、かなりの長い時間を必要とするので、そのつなぎ?として、会の名前に因んで、毎年3月1日、午前11時にポートプラザちばを会場に「三一回定例会」を開くこととして、2019年3月に実施した。

当日は、初めての試みでもあることから、我々幹事はそわそわしながら、会場前で待っていた。うれしいことに定刻には、恩師早川先生はじめ32名の会員が集まってくれた。

この定例会で幹事が用意するのは、会場のみで、座席もフリー、飲食も、各自がウェイトレスに、自分の好みでオーダーするといふやり方にした。

どういう成り行きになるのか、いささかの心配はあったが、さすがに人生の大ベテランである会員は、それぞれのペースで会を楽しんでくれ、幹事をほっとさせた。

いつもながら、若々しい早川先生を囲みながら、談笑の輪が広がっていた。

なかなか名残りは尽きなかったが、この会のために、わざわざ奈良からは参じてくれた、真下君の閉会の挨拶で、また、来年3月の再会を約し、初の定例会は、午後1時過ぎに、お開きとなった。

【2020年定例会のご案内】

日時 2020年3月1日

午前11時から

場所 ホテルポートプラザちば
(京葉線千葉みなと駅前)

●昭和36年卒

代表幹事 田那村 宏

吾ら同期も、八十の坂に向かう人生の節目、昨年10月20日「喜寿(満77歳)記念同窓会」を開催



した(於ホテル・プラザ葉の花)。
9/9の台風15号は千葉県に大規模停電を始め、多くの被害をもたらし、10/12の台風19号は、東海・関東・東北各地に河川の決壊等の激甚災害となりました。
喜寿同窓会は天候に恵まれ、兵庫・新潟・静岡からも参加があり、77名に近い盛会となりました。司会の下、出席者の点呼が行われ、起立しての返事は出席者全員の当時の顔と名前が一致し、青春の日が此処に再現。
蛭田氏の諸報告、若梅氏の乾杯の挨拶に、逝去された石井氏、諸岡氏、鶴田氏を始めの同期の方は、みな言葉聞いて仲間に参加、旧交を温めつつ歓談。母校の現状については佐藤英幸



元校長より、長谷川氏は改めて、千葉県経済界に尽力された気配りの人、同期石井俊昭氏を追悼した。

遠方から出席の大熊・樫永・河野・小野各氏の近況報告、飯高氏の講義は数検1級を小5年で合格した数学の話。折り紙の先生は今年の千支・子のペアの折り紙の配布。校歌斉唱後、次は傘寿の総会を考える、と中野氏の中締めで閉会。

●昭和39年卒

畠山 一雄

39年卒同期は、年中行事が活発です。毎年、春のお花見ハイク、秋の紅葉ハイクでは約20名の参加者が集まります。ハイキング後に現地の蕎麦屋、割烹等で懇親会を行います。昨年春は泉自然公園、秋は「つくば古道と筑波山」を楽しみました。

また年2回のゴルフコンペがあり、本千葉カントリークラブ等にて4組程度のミニコンペを行っています。

特筆すべきは永く続いている年1回の定期演奏会とそれに合わせて行う同期懇親会です。この演奏会は、同期有志6名の皆

さんが60才になってから始めたもので、日ごろ鍛えた歌曲やフルート等の楽器演奏を披露しています。70才過ぎてからも、メンバーは一部変わりましたが演奏会を続け、最近では現役千葉高クラシックギター部、オーケストラ部の皆さんにも共演して頂いています。演奏会終了後、近くの居酒屋での懇親会には毎年、



50人ほど同期生が集います。他にも登山やテニス、囲碁などで、同期の絆や友情を深めながら、人生を楽しんでいます。

●昭和39年(定) 卒

三井 芳夫

「ランチで、お茶べり」11月2日、一日遅れの創立記念日です。そうこう10F「ナパトレイン」(ダブル&ロースト)、皆さん、完食でした。

一昨年の秋、テレビ朝の番組で食レポ、南房総市。ひよっとしたら！三子ちゃんが突然画面に出た！！地域に溶け込んで活躍している様子が判ります。

これで次回は鈴木三子(旧姓；



大木、昭和39卒)ちゃんが主役のハズでしたが、今年の房総半島何だコレ。同期はほとんどが内房線です。皆の家屋など、どうなっているだろう。

仕方ない、こんな時と思う人もあるでしょうが、三井はこんな時だから、やっちゃいます。今回は全員に出せず、20名へのお誘いで、13名が出席でした。

この数年は、水不足のニュースもなく、千葉には大きな山も、大きな川もなく、災害に油断しているのか、千葉の一部ではアガ「アントン・ネエヨ」これです。それって、どうだろう。

そんな理由で、三子ちゃんから台風へ、話題の主役は変わりました。また来年です。

●昭和40年(定) 卒

OSB会幹事長 谷中 勝美

『今年も一泊で開催』

昭和36年入学した当時1年2年のクラスの仲間で結成した同窓会(OSB会)を今年も一泊で6月16、17日に長生郡白子町のニューカネイで開催しました。5名の出席者でした。

たがいに来し方、行く末を真夜中まで語り合い、それから

ちよつと寝て、想いは尽きる事なく友情は深まりました。翌日には玉前神社まで行ってみました。



●昭和41年卒

幹事手伝い 貴井英昭

葛城41の会(同期会の名前で)は、これまで毎年8月最終土曜の夜に開いていましたが、一昨年から猛暑を避けまた遠方から来る方を考慮して一か月後ろにずらし、開会時刻も4時に変更しました。今年は10月5日に行なわれ、69名の参加がありました。

今回で何回目になるか数えたこともありませんが、途切れることなく30年以上続いています。古希までは参加者も百名か



さんは必ず参加すると決めておられるそうで、今年も元気な姿を拝せました。

「NPO法人 千葉性暴力被害者支援センター ちさと」理事長で奮闘されている大川玲子さんにも頭が下がります。バスケット部時代の活力をそのまま維持されているのが藤しず江さんで、毎月のように全国各地でアクアダイビングを楽しんでおられます。男どもも「もう爺いだから」と言っておれませんな。Woman powerみなぎる葛城41の会の報告でした。

写真は真行寺豊君撮影

●昭和43年卒

伊藤三平

「地域との縁も」

高校になると地域との縁は学力で足切りされて薄くなるが、仕事を辞めて自宅にいと近所の人に引っぱり出されて地縁が復活する。私も自治会長4年目だが、把握している同期の範囲では、他に自治会長が1人、民生委員が2人、自治会役員も何人かいる。

今年、千葉県は暴風・大雨の

災害に見舞われた。同期の被害も聞こえてくる。災害の時こそ「遠くの親戚より近くの他人」という地縁の大切さを意識してもらえるかと思うのだが、自治会で防災用品を揃えても、役員は年寄りが大半でカケヤ、ボールなどを前に誰が使うのかと暗澹たる気分になる。炊き出し訓練をしても、当地は広大な神社もあり、公共施設も多いだけに自治会の人以外の多くの人が殺到することは明白であり、加えて千葉方面へ帰宅する人の通過地であり、空しくなる。

行政は「自助、共助、公助」と唱えて公助を3番手に位置づけて相対的役割を低めているがやむを得ない面がある。共助を担う自治会も上記のような実態だ。「自治会に入るメリットは何ですか?」と聞いて、加入しない者が多いと言う。個人のメリットなどとは無いのだ。世の為、社会の為という公益世務が文明社会にあることを忘れてはいけない。

●昭和44年卒

森 茂

『海を渡る蝶』

俳句で「蝶」は春の季語ですが

令和元年の秋、名勝・錦帯橋を渡ったところで、珍しい蝶に出会いました。蝶はアサギマダラ、花は秋の七草の藤袴。この花が公園の一坪半ほどの処にびっしりと咲いており、数匹のタテハ蝶類に混じって、アサギマダラが何匹もこの花の周りを舞った。花にぶら下がったりしていたのです。昆虫採集世代の私たちですが、この蝶は平地ではなかなかお目にかかれない珍しい大型の蝶です。特にその飛び方はふわふわと優雅で、決して力強いものではありません。ところが、このアサギマダラは季節により長距離移動(渡り)をする蝶として知られています。海を越えて台湾まで二千里を移動した個体も確認されているそうですが、一体この蝶のどこにそんなパワーと能力が秘められているのでしょうか?

我々の学年も令和2年(10月25日・京成ミラマールにて)古稀記念の第7回同期会を開催しますが、例えば70年という長い年月を各々が凌いできたことと、この蝶の長い旅とが重なって見えるのです。因みに、アサギマダラの好む藤袴等の草花にはアルカロイドという毒素が含ま

まれており、これを体内に蓄積することで鳥などに襲われないのだと言われています。振り返ってみれば、人間世界の世渡りにも少々毒が必要だったような気がしています。

◇てふてふが一匹韃靼海峡を渡つて行つた。(安西冬衛)

●昭和47年卒

幹事 古阪 徹
ふるさか とおる

「同期と同窓」

同期会報告だが、今回はネタがない。なぜなら我々の同期会は隔年開催だから。同期会の分科会としてゴルフ部は30名ほどで春・秋のコンペを、サッカー部は20名ほどでJリーグや高校選手権観戦を不定期に毎年行っている。以上。ではいかに何でも。

しからば雑感。米国イェール大学医学部外科学教室勤務時代、マンハッタンから100km程のニューヘイヴンという都市のこ。中央官庁の職員や企業の社員が留学していた。学部は違うが教官であるという理由で相談を引き受けていた。当時千葉県知事を務めておられた先輩をニューヨーク日本人会が招待したことがあった。『知事とは同窓

でしょう?』と言われて驚きと嬉しさとともに、木造の旧校舎がありありと蘇った。

千葉高でもサッカーを続けていた。国体誘致が決まり、強くなっていた時期で県大会で優勝することもあった時代である。その頃の学年が集まることも多くあったが、恩師が続けて鬼籍に登り活動量が落ちたように感じる。

2020年10月18日(日曜日)夕刻、東京都文京区水道にある『小石川テラス』で、同期会が開催される。『オメーラヨウ』の声が蘇る。恩師は求心力だ。ご健在を祈る。

●昭和49年卒

市原克巳

我々の世代は、昭和30年4月から31年3月までに生まれ今年度で64才になる。会社員をやっていたればあと1年で定年となる世代だ。同級生でも高校卒業以来全く会っていない人たちが、同窓会で会ってみるとすぐに高校生の時代に戻ってしまうように感じるのは不思議だ。

我々は内輪では、運動部出身者が主体に、毎年新年会を開催

してきた。高校3年生の頃からは数十年間、千葉の老舗料亭「万菊」で1月2日の夕方に集まった。今はその料亭もなくなり、ここ数年は羽田ホテルでやっている。年に数回会い、安否確認をしている感じだ。話題も若い頃は仕事の話や、結婚の話。最近では健康や年金の話など年とともに話す内容は変わってきた。

ただ同窓会に来る人を見てみると、それぞれ若干の事情は異なるにせよ、①健康(但し皆1つや2つの持病はもっている)②家庭にはあまり問題はもっていない(親の問題、夫婦関係、子供との関係に皆それぞれ若干の問題はかかえているが、最悪の状況にはない)③金銭の問題をかかえていない(同窓会に出られるくらいのお金は自由に使える)この3条件を満たしている人が参加している様に思う。

人生100年時代といわれるが、心身ともに健康でいられるのはせいぜい70才を少し過ぎたところまでである。頭も身体も硬くなり、新聞の字が読みにくくなる毎日であるが、元気に同窓会に行ける状況を維持していきたいと思っている。

●昭和54年卒

池田知行

昭和54年卒は、平成27年1月3日に千葉駅近くの居酒屋で何となく13名が集まったのをきっかけに、毎年1月3日を定例開催日として同期会を開催しております。会場も、初期の2回はプラザ菜の花でしたが、平成29年「夏の会」以来、京成ホテルミラマールでの開催が定着しています。

平成から令和となつた2019年には、正月と夏に同期会を開催し、1月3日の「正月会」には43名が出席しました。また、2年ぶりに「夏の会」を8月17日、47名の出席を得て開催しました。出席者数は毎回40〜50名程度ですが、携帯電話やSNSで連絡がつく方も同期卒業生の半分ほどに増え、新たに出席するメンバーは毎回10名程度という状況です。

在学中からの顔見知



りは勿論、初めて会話する人もすぐに打ち解けて、2次会・3次会と話は尽きることなく、同期会は毎回、大いに盛り上げられます。幹事団としても嬉しい限りです。一方、クラス別参加者数には、やや偏りがあります

ので、2021年2月の同窓会幹事学年に備えて、同期会ネットワークの益々の拡充を図ってまいります。

●昭和57年卒

土屋保之

令和元年5月11日、京成ホテルミラマールにて、第四回同期会を開催しました。東京葛城会の幹事年度を挟んで六年ぶりに開催した今回は恩師5名と同期生73名が集まり、旧交を温めました。

初の千葉開催となった今回は、千葉高キャンパスへの「ただいま！ツアー」を企画しました。参加者の半数以上が、かつて京成線利用者が通ったルートをたどり、セキュリティの都合上、校舎には入れなかったものの、校庭などを散策し、友との再会だけでなく、懐かしい空間を体感した後、懇親会に臨みました。

会場ミラマールのスカイバンケットは東西がガラス張りの素晴らしいロケーションで、千葉市街を一望しながらの歓談は、「ただいま！ツアー」とともに、楽しいひと時でした。

4回の同期会通算で、同期生のほぼ半数に当たる、193名が集まりました。連絡は取れているのに、まだ一度も会えていない同期生が100人以上います。次回令和3年11月、再び東京・錦糸町にて行う同期会に、一人でも多くの仲間が集えるよう準備をしていきたいと考えています。

●平成18年卒

戸澤庸子

(旧姓 長尾)

昭和末期に生まれて平成が終わり、中原中也の享年を越えていたことに気づいた。

高校時代、総合学習の時間にずっと彼の作品と向き合っていたのに、そのことに一年以上気付かなかったことに愕然とした。

「私はその日人生に、椅子を失くした。」(『港市の秋』より)当時の私が一番好きだったのはこの詩だった。崩れ去る平穏な日常と強烈な喪失感。居場所をなくした人生で何をなすことができ、何を残していけるのか。答えのない問いについて語り合うことが楽しくて、部活仲間だけでなく放課後の国語科準備室でも先

生方につきあっていただいた記憶がある。

今も仕事中や家事の合間などのふとした隙間にこの言葉が蘇り、私の手を止めさせる。私はここに椅子を置いているのだろうか。私はここに椅子を置きたかったのだろうか。いつか人生から立ち去るとき、私は自分の椅子とその置き場所に満足しているのだろうか。

そんなことを考えるということは暇があるからにすぎず、そうしているうちが幸せなのだと自分でも認識している。それでも、私は椅子の在り処について最後まで考えるだろうし、その程度の余裕がある毎日を自分に与え続けたいと思う。

●平成30年卒

成人記念第1回同期会

第70期同窓会長 加藤 佳瑞弘

令和2年1月11日(土)、ホテルプラザ菜の花にて、成人記念卒業後第一回同期会を開催いたしました。

この会は、千葉県立千葉高等学校同窓会のご支援のもと開催されました。第70期生一同心より感謝申し上げます。今回の同



期会では、佐藤校長をはじめ恩師の先生方15名、林副会長をはじめ同窓会役員の先輩方5名、そして同期252名の計272名に参加いただきました。この場をお借りしまして、会の運営にご尽力いただきました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、同期会が始まる前は、2年ぶりに仲間にあうことに緊張や不安を感じておりました。お互い高校時代とは大きく変わってしまったに違いな

いと思ひ込んでいたからです。しかし同期会当日に仲間と会った途端、不安は喜びに変わりました。アルコール漬け、バイト漬け、一夜漬けの忙しい生活を送っていても、内



面はあの頃と同じだったからです。すぐに思い出話に花が咲き、あつという間に時間が過ぎました。

恩師の先生方も変わらずお元気で何よりでした。あの頃先生方に叩き込まれた教養に助けられている者も多いと思います。





あらためて、お世話になりました。これからもご指導よろしく願います。

今回参加されなかった恩師の先生方や同期のみなさん、次の機会にお会いできればと思います。

最後に、何もわからない同窓会幹事に手取り足取りご指導下さりました、阿佐事務局長や沢田名簿委員長には感謝しきれません。お骨折りいただきありがとうございました。そして、僕



の手際が悪かったせいで直前をお願いすることになってしまった、司会や会場誘導係を引き受けてくれた同期の皆さんに心から感謝します。

次の同窓会は10年後、30歳の時に開催する予定です。またお会いしましょう。





圧巻でした第70期生！総勢271名の大集合写真



創立80周年記念館(美術館)に残る 卒業制作作品の回収にご協力を！！

美術部の同窓生が卒業生時に制作した作品が、現在も記念館内の倉庫に多数収納されているのが判りました。(左写真) 直射日光が入るガラス窓のある部屋で、もちろん空調設備もなく、劣悪な環境下にあります。

今後、作者による作品の引き取りが必要になるかと思いますが、学校としては具体的なことは検討中と聞いています。

同窓会は、今後とも学校の運営に対し協力する所存でいますので、関係の同窓生、心当たりのある同窓生の皆様は、是非ご連絡いただきますよう、お願いいたします。

同窓会ホームページまたはFAXにて、ご連絡くださるようお願いいたします。

ホームページ→<http://chibako.net>
FAX. 043-239-5551

5万円の100周年記念誌を2,000円で手に入ませんか？



昭和54年に発行された100周年記念誌は、一般販売をせず、5万円以上寄付金した方に贈呈しましたが、このほど、学校図書館の資料室に200冊あまりが眠っているのが判り、同窓会役員で協議した結果、同窓生の皆さまに送料2,000円で頒布することにいたしました。

記録だけではなく当時の生徒の寄稿やインタビュー、恩師のアダ名一覧があるなど、面白く読める大変貴重な記念誌です。数に限りがあるので、お早めにお申込みください。

なお、記念誌には100周年記念名簿も付いていましたが、個人情報保護の観点から名簿のない状態での頒布となります。

ご希望の方は、同窓会のホームページから申し込むか、事務局へFAXください！

葛城人脈 ⑤

近藤(野口)晶代さん
(昭和59年卒)
上村(河島)美紀さん

千葉高が創立されて140余年。葛城台から数多の卒業生が巣立っていったが、この「葛城人脈」では、今まさに活躍している卒業生へのインタビューを通じて、チャレンジ精神の源流に迫る。今回も前回同様、高校時代からの親友二人の物語である。聞き手は東寿浩(平成12年卒)

高校での出会い

—— よろしくお願ひいたします。同級生と一緒に仕事をされているということですが、知り合われたのはいつですか？

上村美紀(以下、上村) 高校1年生のとき、同じクラスになって、弓道部にも一緒に入ったんです。

—— 中学は別だったんですね。

近藤晶代(以下、近藤) 私は中学2年生まで稲毛海岸の高洲二中に通っていたんだけど、家を建てて中3から幕張西中に転校しました。すごいガリ勉ちゃん。

上村 私は新検見川の花園小に通っていて、そのまま行くとしたら花園中だったのだけど、小学校の途中で稲毛の広い杜宅に引っ越していたこともあって、中学校に入るタイミングで越境をやめて稲毛中に通いました。

—— お二人とも中学校時代にコミュニケーションが大きく変わったんですね。

近藤 中3になって転校してきて、いきなり学年トップになった

ちゃったから「なんだコイツ？」みたいな感じ。しかも、新しい制服が間に合わなくて総スカンされちゃって。今の時代だったらいいめられてたかも。一年間は仮住まいみたいな感じ。

上村 私も花園小から稲毛中に行ったのは一人だけだったから、寂しかったよね。三つ上の姉は花園中から千葉高だったけど、姉は本当に勉強ができたから、千葉高に入ったから「ほう、あの河島さんの妹さんね」と先生方から思われるのがちょっとプレッシャーだったかも。

—— 当時の千葉高、女子生徒は何人くらいでしたか？

近藤 90人くらい？理系のクラスだと体育の女子の授業で一クラスではバレーボールができなくて、他のクラスと一緒にやってたり。

上村 毎年、時間割作るの大変だろうな一っと思ってた。でも、女子はみんな仲良かったよね。

—— 弓道部に入ろうと思われたのは？

近藤 「1980アイコ十六歳」。あれ見ていいな一っと思っ

緒に見学にいったのよね。

上村 あまり激しい運動はしなくて。いい感じに文化系的な運動部がいかなと思ったの。

近藤 中学でバスケットで、バリバリやっててきついのはもう嫌だったのよね。

—— 実は私も弓道部に入るか迷っていて、結局クラシックギター部にしましたが、我々の代は弓道部はインターハイにいくくらい強かったんです。

上村 私たちのときはそこまででなかったかな。ラグビーも、花園に出たのもう少し後の代。

近藤 私たち二人とも、総武線で通学したから、毎朝待ち合わせで二人で一緒に通ってたの。

上村 晶代ちゃんが幕張から、私が稲毛から乗るんだけど、携帯とか無い時代だから、何時発の何号車の何番目のドアについて事前に言ってた。

大学時代の思い出

—— お二人は大学も一緒でしたね。お二人とも現役ですか？

近藤 私は現役。父が商社で働いていて、関西に転勤になったんだけど、当時、女の子は家元から通うというのが一般的だったので、関西の大学も受けることにしたの。

上村 関西学院大学と神戸女学院を受けて、関東の大学は慶應しか受けなかったな。

上村 私は一浪。当時はお茶の水女子大に行きたくて、現役の時思ったように結果が出なかったから浪人することにしたの。結局お茶の水に行つてないけど(笑)。

近藤 代々木ゼミナールの代々木校の講習を受けに行った後、原宿のお店に美紀ちゃんのお姉さんに連れて行ってもらったんだけど、そこがすごくオシャレで、女子大生になりたかったのよね。早く女子大生になりたい！って思ったのよね。でも、高校の時の成績が400人中260番くらいで、どんなに頑張っても真ん中より上に上がれないわけ。中学校時代は神童だったのにね。そうこうしてたら高2の終わりの時に初めて受けた模試で、信じられないような低い偏差値を出しちゃったの。この成績で行ける大学といえば、失礼だけど聞いたことがないようなところばかり。そんなんじゃないか、ということに死に物狂いで勉強したら慶應に受かったの。

—— 当時の大学生活はどのような感じだったんですか？

近藤 テニスサークルに入ってた。

上村 私もテニスサークルに入ってたけど、メインは書道サークル。当時はバブルだったから、みんな車持ってるのが当たり前の時代。マークIIとかレジェンドとか。初めて運転した車が元彼のRX-7だったかな。

近藤 何人かで車を出し合ってた方向の人同士が仲良くなった。今の大学生だったら考えられないけど、車を持っていない人は

眼中にない、って感じだった。今の夫も大学が一緒で当時から知ってたんだけど車を持ってなくて、あの時はまったく視野に入らなかったなあ。

—— 時代の空気を感じます。勉強の方はどうでしたか？

上村 私は、昔から史学科に行きたかったの。法学部とかも受けたけど、やっぱり第一志望は史学科で、文学部は2年生の三田に行くときから専攻が分かれるんだけど、史学科は英文学や社会学みたいに志望者が多くないので特に選抜試験があるわけでもなく、そのまますすりと進むことができたけど。奈良時代の村山光一ゼミでした。今の塾長の長谷山彰さんがなんとゼミの先輩なの。

近藤 私は政治学科でアフリカ政治のゼミ。後に敬愛大学の学長をされた小田英郎先生に教わってました。

—— ちなみに、その頃の就職活動ってどういう感じでしたか？

近藤 実は、就職活動ってほとんどしてなくて。父が清水建設の人事の人を紹介してくれて、何度か会って終了。当時は総合職の採用が始まった頃で、清水は一般職しか募集しなかったから、「一般職だけいいの？」と聞かれて、それでいいです、って。母が専業主婦だったから母親をモデルに考えていて、数年経ったら結婚して辞めるつもりだった。



写真左：上村さん 写真右：近藤さん

Profile

近藤(野口)晶代 (こんどう(のぐち)あきよ)

千葉高時代は弓道部に所属。慶應義塾大学法学部政治学科卒業後、清水建設勤務を経て、社会保険労務士に。野口経営労務管理事務所(現:E・パートナーズ経営労務管理事務所)を設立、所長を務める。

上村(河島)美紀 (かみむら(かわしま)みき)

千葉高時代は弓道部に所属。慶應義塾大学文学部卒業後、JR東日本を経て、社会保険労務士に。現在はE・パートナーズ経営労務管理事務所所属。

社会保険労務士への道

— 入社されてからは？

近藤 結局、5年くらい続けたかな。結婚して辞めてフランスについて行って帰ってきて、色々あって家庭が壊れて…。離婚して実家に帰ったんだけど、何とかして食べていく術を考えなければならなくて、

上村 私、ほとんど就職活動してないの。私の姉が「JRって今年女の子探るんだって」って言うてきて、じゃあ受けてみたら総合職しか採ってないという話で、総合職になったというか…。

— 最近の就職活動とは隔世の感ですね…。

上村 そう、だから娘の就職活動とかには何もアドバイスできないのよね。インターンとかさっぱりわからないし。

な。でも、パートとかは向いてないと思って、資格を取ろうと思

たの。1年間、死に物狂いで勉強して、平成13年に社労士に合格しました。お風呂に入っている時間とご飯を食べている時間以外は全て勉強につきこんだなあ。子どもも

小さいから、何年もあるわけにはいかないし、千葉高の人ってゴールが決まっていることで努力するのはすごく得意でしょ？とにかく一年でけりをつけようと必死だったの。

上村 私は10年ちよつと続けた。で、辞めて子どもが生まれて、何かやらねばと思ったのよね。JRって、労働組合対策が結構重要な仕事だったから、労働基準法を折に触れて勉強してたの。だから、社

労士になろうと思って勉強を始めた。休日は夫と実家に子どもと世話を任せてずっと勉強。車で送り迎える時間をどうやって減らそうとか必死で考えてた。そ

れで、平成15年に合格。

— すごくですね。子育てをされながらの試験勉強、大変だったことと思います。

近藤 私は背水の陣だったからね。やるしかない、と。受かった後、最初は大きな事務所にアルバイトと

かに行つてただけど、いよいよ独立することになり、最初は一人で回してたものの手が回らなくなつてきて、誰かと一緒にやろうかな、と。な

んで一緒にやることになったんだっけ？(笑)

上村 確か電話したんだよ。

近藤 そうそう、私たち社労士目指そうって口裏合わせていたわけでもないの。本当に偶然そうなつて。で、電話のあと会って話したら、私は間に離婚があったりしたから色々状況が変わつて、確か美紀ちゃんも父さんの体調が悪くて。

上村 そう、がんになつて。

近藤 そんな話を色々して、手

伝ててくれたのよ。つていう話をしたのよね。

上村 最初は子どもが幼稚園に行っている時だったから2時に帰るとか、夫の転勤で宇都宮に住んでいたこともあって、その時は宇都宮から都内まで遠距離通勤！絶対に新幹線には乗らないって決めてたの。で、夏とかは青春18きっぷをまとめて買った(笑)。

— す、すごいですね…。

近藤 よく、男の人って一度オフになっちゃうとその後仕事ができないうていっしょ？家に帰ってビール一杯飲んでしまったらもう無理、みたいな。でも、私たちは子どもを面倒見たり飲み会があったりした後からでも仕事のスイッチを入れられるの。

上村 だから、今でも割と早く帰って、持ち帰って仕事をすることが多いかな。忙しいときとか、夜中の一時二時に、お互い「今やっ

てる？」とか確認しあつたり(笑)。

— 最近時間や場所にとらわれない働き方も増えてきていますよね。しかし、同級生と一緒に事務所を経営されている方は珍しいように思いました。

近藤 時々いるけどね。ただ、うまくいっていないところが多いと思う。結構仲違いして終わっちゃうところも多くて。その辺、美紀ちゃんがとてもよくできていらつしやるから。

上村 いえいえ、でもなんだろうね、うまくいくコツは。お互い趣味が違ったりするからかなあ。私はランニングが趣味で、晶代ちゃんは宝塚が好きだったり。過干渉しないというか。

若い後輩へのメッセージ

— 実は、この「葛城人脈」でOGの方にインタビューするのは今回が初めてなんです。

上村 え？そうなの？それはどう

も(笑)。

— そういうこともあり、後輩のOGや現役の生徒にお伝えしたいことがあれば是非一言ずつお願いいたします。

近藤 若い時期にしかできないことがあるから、そのときにすべきことを迷いなくやってほしい。女性性は、子どもを産むか産まないか、という選択をする時期が絶対に来るんですよ。その時に、自分の可能性を閉じないで、一番いいチョイスだと思ふものを選び取っていくと、道は繋がるよ。だって当時はまさか中央区に事務所を構えるなんて思つてなかったもの(笑)。

上村 そうね、今は情報が多くて色々なことを知りやすい時代だけど、人に話すときに、自分で考えて咀嚼しないと伝わらないと思うのね。特に女性の場合、ちゃんと話して自分のことをわかってもらわないとなかなか信頼してもらえないということが今でもあつたりするから、誰かが言ったこととかじゃなくて、自分の言葉で話すことが大切だと思います。それでも、私たちが会社員になったところと今の若い子たちの状況では格段に違うし、ハラスメントでかばつてもらえることもあるしね。だから、諦めないでほしい。あと、本を読めとは言わないけど、勉強はし続けた方がいいし、千葉高を出た人なら、きつとそれはできるはず。

— ありがとございました。

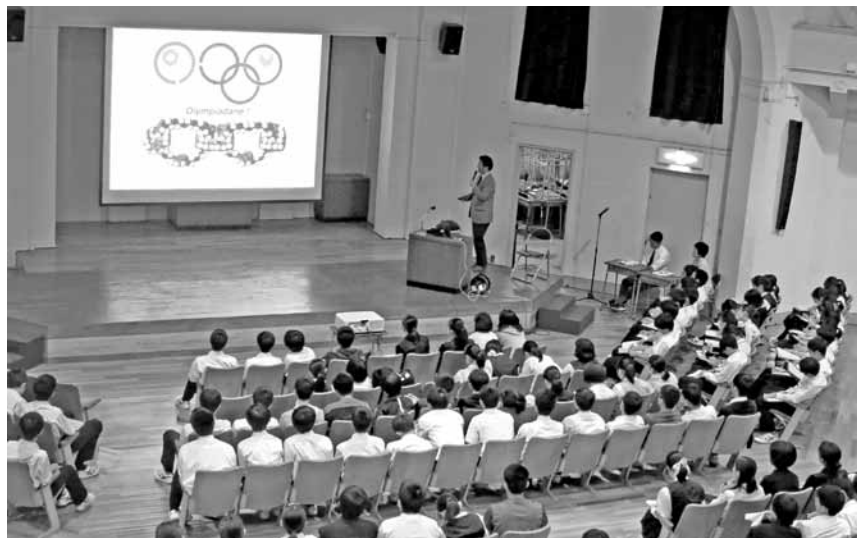
同窓会の母校支援活動

社会人講演会への講師派遣

【高校への講師派遣】

高校では「総合的な学習の時間」で、活躍中の先輩から最新の事情や進路上的の心構えなどを講演してもらう講師派遣を行っている。

6月の1年総合学習・外部講師講演会では、本年の同窓会総会の幹事学年、昭和52年卒から塩谷光彦氏に周期表を使った分子レベルのものづくりに関する講演をお願いした。



佐藤校長からの

報告にもあるとおり、塩谷氏は、生徒の雰囲気や40年以上前と変わらず、礼儀正しくうれしかったとの感想だった。

10月の2年総合学習・外部講師講演会では、野村竜一氏(平成7年卒)東寿浩氏(平成12年卒)、鈴木裕介氏(平成12年卒)、作田豊氏(平成12年卒)、佐々木俊介氏(平成12年卒)、寶川絃司氏(平成14年卒)、小野口玲菜氏(平成18年卒)、鹿渡俊介氏(平成18年卒)

卒)に、分科会に分かれて講師をお願いした。この講演会への生徒たちの感想を掲載する。

また、「大学の先生による模擬授業」として、5月には錫田駿氏(平成20年卒)に、「古くて新しい『くつつける』の科学」と題する溶接工学の基礎や最新の研究事例などの講義を行っていただいた。

【高校2年生対象講演会】

【先輩に聞く】の生徒感想

【東寿浩先輩】

マスコミ論を大学時代に専攻されていたということでこの講演を選びました。

私が思っていたよりも「マスコミ」というのは世界が広く、働き方もさまざまだと知り、驚きました。また、仕事をしていく中で転職するという選択肢があったり、高校時代の交友関係が大きな仕事につながったりという部分から、柔軟な考え方や人脈を大切にすることなどを学べました。

【作田豊先輩】

現在世の中は指数関数的に発展しているという話がとても印象的だった。約20年前、作田さんが学生だった時代にはポケベルだったものが現在ではほとん

どの人が1人1台スマホを持つというのは当時からすると想像もできなかったと思う。

そして指数関数的な発展ということは、今後、ポケベルからスマホへとという大きな変革の数の倍の変革があると考えるところのような未来になるか本当にわからないがその時代に合わせて活躍できるようにしたいと思った。

【佐々木俊介先輩】

普段耳にすることのないような内容の話を詳しく話していただき、とても貴重な経験になりました。自分はまだ将来、どのような道に進んでいくかがなかなか決まらない状態なのですが、先輩が学生の頃から様々な分野に足を踏み入れ活動していたという話を聴き、私も視野を広げてあらゆる事に挑戦してみようと思いました。また、今、やみくもに机に向かって取り組んでいる勉強にも様々な価値を見出すことができるという、勉強に対する姿勢が自分の中で変わった気がします。

【中学校の社会人講演会】

千葉中学校でも「社会人講演会」を開催しており、さまざまな分野で活躍する先輩方の話を聞

くことで視野を広げ社会に参加する力を身につけてもらおうとしている。講師は必ずしも母校の卒業生ではないので同窓会直接の支援活動ではないが、講師謝礼の補助をしている。また中学校生徒のみならず、保護者や地域住民にも参加を呼び掛けている。

令和元年度第1回は「電機メーカー会社員の立場から皆さんへ伝えたいこと」と題して、パナソニック株式会社の下垣勇介さんが6月21日に講演した。

下垣さんは東京理科大学大学院理工学研究科修士課程を修了し、国内外のロボット、工作機械向けサーボモーター制御用ハードウェアの要素開発、製品開発プロジェクトをリードされている。

第2回は、11月8日、県の高校教員を経て書の歴史を文化史として研究し、現在愛知東邦大学教授の増田孝さんに「古文書について」お話しいただいた。

また、第3回として国際基督教大学教養学部を卒業して岩波書店に入り、現在同社のジュニア新書編集長の山本慎一先輩(昭和57年卒)に「出版・新書の未来」を2月7日に講演いただく。

文武両道 県大会レベル超え 全国大会への挑戦相次ぐ

遠隔地開催、人数多く派遣費用に苦しむ

☆弓道部 県高校総体連覇、インターハイ全国6位、技能優秀賞受賞

弓道部は、男子団体で県高校総体連覇を達成し、「南部九州インターハイ」(宮崎県) 出場を果たしました。本選では、全国6位に入賞、さらには技能優秀賞を手にすることができました。技能優秀賞は、日本で最も技術が優れていると認められる学校に贈られる非常に名誉な賞であり、千葉県では初の受賞でした。年末には、今度は女子が全国選抜大会(群馬県)に出場します。予選となる千葉県新人戦では、本校初の団体および個人でのW優勝を遂げました。夏の勢いを受け、冬の全国大会でも活躍できるよう選手たちは日々稽古に励んでいます。

☆千葉中・高合唱部、全国大会

合唱部部长 2年 伊藤真緒
私達県立千葉中学校・高等学校合唱部は、6月1日に佐賀県で

行われた第43回全国高等学校総合文化祭合唱部門に参加しました。未だ経験のない大舞台に緊張もありましたが、積み重ねてきた自分たちなりの合唱を全国場で発表できました。また、他団体の圧巻の演奏に沢山の刺激を受けました。貴重な経験をさせて頂いたことに感謝でいっぱいです。歌うことの楽しさを忘れず、学んだことを今後の活動に活かしていきます。

☆囲碁、県大会全員全勝で優勝
全国大会に出場

囲碁部は5月に開催された千葉県大会において、主将・市田、副将・矢嶋、三将・大畑(全員3年生)のメンバー全員が全勝で優勝し、7月に開催された全国大会に出場しました。団体戦一次リーグで富山中部高校(富山県)雲雀丘学園高校(兵庫県)には2勝1敗で勝利しましたが、彦根

東高校(滋賀県)に1勝2敗で敗れ、残念ながら決勝トーナメントには進めませんでした。主将市田は個人戦にも出場しましたが、2勝1敗で一次リーグ敗退でした。

☆書道部 全国高校総文出展
ほか 顧問 霊園淳

書道部では「第43回全国高等学校総合文化祭(2019)」が総文」に橋本充史君が選出され、約2・5×1メートルの大作を出展しました。

他にも柴崎桜さんが「第81回謹慎書道会展」で高校生優秀賞、田丸王太君が「第20回高校生国際美術展」で奨励賞、鈴木彩花さんが「第28回国際高校生選抜書展(書



の甲子園)で優秀賞など、さまざまな展覧会で入賞をはたしております。各々が古典臨書を中心に据え、少ない活動時間を上手く調整して作品創りに励んでいます。

☆将棋部、全国大会出場
2年 佐久間一輝

夏の総文祭、全国大会に出場しました。千葉県の将棋のレベルは高く、上位入賞すら困難、という状況が続いていて、全国大会への出場も初めは全く実感がわきませんでした。しかし表彰を受けた後から、徐々に嬉しさがこみ上げてきました。全国大会での経験はとても良いものとなりました。今後とも部員一丸となって、精進を重ねていきます。

☆県中学新人体育大会、男子柔道 81kg級で北村弘成君 優勝

千葉中柔道部顧問 小原尊重

令和元年10月19日、千葉県武道館にて千葉県中学校新人体育大会が開催され、本校中学2年生の北村弘成君が優勝(男子81kg級)の成績をおさめました。9月の地区予選では延長戦を制しながらの1位通過でしたが、本戦の県大会はすべて一本勝ち(4試合中3試合が寝技による一本勝ち)でした。

本人は「元々は立技が好きでしたが、苦手の寝技に挑戦していく中で稽古を深めることができた。技のコツを発見することができた」と感想を述べていました。



令和2年度定時理事会報告

1月18日(土)午後2時より母校大会議室で開催しました。昭和22年卒から平成30年卒までの理事・役員と、学校から佐藤校長を始め5名、総勢81名が出席しました。

雪との予報もあった冷たい雨中、お集まりの皆さんは、鈴木一郎会長(昭35卒)、佐藤宰校長の挨拶から始まった議事進行に熱心に加わっていただきました。

会則により議長を務める会長の進行により、平成31年度の事業ならびに決算報告、令和2年度の同窓会事業計画ならびに予算案が説明され、母校の現況、同窓会の活動状況に真剣な目が向けられ、審議が進みました。

今回は任期2年の役員改選期に当たり、3期6年間にわたり会長をされた鈴木一郎会長から林孝二郎会長(昭39卒)への交代が承認されました。林会長は副会長からの就任ですので、新たに池田知行さん(昭54卒)の副会長就任も了承されました。

※改選後の本部役員体制は左表を参照。

新旧両会長のお話にもありますが、同窓会報の発行ならびに個別送付の拡大、それを可能にする同窓会名簿管理システムの現況について具体的な数字を加えて報告し、2月1日開催の同窓会総会・懇親会場で配布する総会資料に加えられる情報を

お聞きすることが出来ました。

2016年以前は5000部だった同窓会報の発行部数は、2017年から6500部になり、個別配布をはじめました。

昨年の48号は7500部を発行し3500部を個別送付いたしました。以前のように総会や同期会や地域会への配布ではなく、個別送付をすることにより、会報の存在を初めて知ったという同窓生も多く、送付に併せてお願いしている運営費に充てる寄付は、昨年も102万円と成果を得ています。

葛城だより

◎令和元年度受章者

心よりお祝い申し上げます。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

旭日双光章 浅野 尚(昭32)
旭日双光章 小川 善之(昭35)
瑞宝中綬章 片岡 寛(昭35)
瑞宝中綬章 鈴木 一郎(昭35)
総務大臣自治功労表彰 伊東 幹雄(昭39)
(敬称略・卒業年順)

◎逝去者(役員・理事)

謹んでご冥福をお祈りします。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

永野 剛(昭26) 元年7月 日
植草 光長(昭29) 元年7月11日
佐川 信夫(昭33) 元年6月17日
嵐 武夫(昭37) 元年11月8日
鶴岡 茂樹(昭48) 元年10月24日
(敬称略・卒業年順)

◎寄付者(同窓会宛)

心より御礼申し上げます。

●昭和52年卒同期会

(平成31年度総会・懇親会幹事年度)
300,000円
(敬称略・順不同)

題字揮毫

辻元大雲氏

本名：洋一 昭和37年卒

編集後記

◆同窓会報第49号をお届けします。今回もたくさんの方の寄稿ありがとうございました。

◆毎号、同窓生のご活躍、ご健勝と強い絆を感じることが出来ます。今号においては、現在の学校の活動として、特に、昨年度に引き続き弓道部をはじめとする多くの部活動が全国大会に出場し、その報告をできることを嬉しく思います。また、講演会などでの実際の生徒の感想も複数取り入れてみましたので、ご覧になった時に、現在の生徒たちの様子がよりよく伝われば幸いです。今回の原稿をまとめるにあたって、部活動や講演会などの学校の諸活動がいかに先輩方の支援に支えられているのかを強く実感いたしました。そのことをしっかりと学校職員、生徒に伝え、より周囲から応援される集団、学校になれるように意識を持つこと、また、学校での取り組みや生徒の活躍をきちんと同窓会や先輩方に伝え、母校への愛と誇りを持ち続けてもらうことが私の使命だと考えるようになりました。

◆こちらの学校に赴任して2年がたとうとしておりますが、まだまだ眠っている千葉高の力を存分に発揮できるように、様々な立場にたつて、学校の発展に尽くしていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

田中航祐(平成20年卒)